

# 緊急災害復旧工事施工者との意見交換会

平成23年5月31日

今回の緊急災害復旧工事の実施でのご意見をお聞かせ頂きたい。

## ○H22 本新地先緊急災害復旧工事 松原建設(株)

災害は大変不幸なことでしたが、復旧工事に関しては、一度も雨が降らず大変天候に恵まれた工事であったと思います。

災害復旧工事で一番最初に困ったのが材料の手配です。

河川事務所だけでなく、民間の方々も土のうやブルーシートを買い集められていて商社に頼んでもなかなか手に入らない状況であった。

スタンドが閉鎖したが、うちが船舶を持っているので万が一には船舶の軽油を使用することも検討していた。

労務のほうも協力業者だけじゃ足りなくて、少し遠い五霞町の業者さんを手配し作業をやらせて頂きました。

## ○H22 八筋川地先緊急災害復旧工事 室田建設(株)

当社は利根川、霞ヶ浦、横利根という3箇川に囲まれた地域でございます。

地震発生当日、茨城県側にも行けない、佐原にも渡れないという一時孤立状態になりまして、当社で備蓄してありましたRC材、土のう等を使いましてまず県道から通れるようにする作業を行いました。

事務所から工事の話の頂きまして、川を越えていくことが不可能でしたから八筋川地先という、川を渡らないで行ける現場を設定して頂きました。

工事は24時間という施工体制をとろうとしましたが、住宅が隣接しているので被災している方々から精神面から夜はやらないでほしいと強い要望がありました。

## ○H22 息栖地先緊急災害復旧工事 (株)二輝建設

本社が潮来市の日の出にありまして、当社も被災したということでライフラインの復旧と霞ヶ浦河川事務所の災害協定を結んでいるのと平行して作業を進めなければならないという非常に困難な状況で実施しました。

その中で一番苦労したのはさまざまな管理でした。

○H22 筈島地先緊急災害復旧工事 細谷建設工業(株)

常日頃、緊急連絡体制を整えておりますので比較的スムーズに上から下に降りていつでも連絡したら集まるような体制を作っております。

油は大変苦勞はしましたが比較的地元の常日頃お世話になっているスタンドさんが災害用ということで協力してくれたのでそういう面では助かったと思います。

湖岸の災害場所に車が行けないので水上しかないということで、三国屋建設(株)さんのクレーン台船を使用させていただき助かりました。

南側のブロックが備蓄資材を利用していいということだったので運搬できました。

船の軽油の必要でした。何でも水上運送なので少なくなってしまうものですから事務所から支給されたので非常に助かりました。

大体順調に現場は3月中に終わりましたのでうまくいったと思います。

○H22 一之分目地先緊急災害復旧工事 三国屋建設(株)

復旧工事に携わらせて頂きましてありがとうございました。

今回工事の段階で苦勞したのは、材料の手配、そして燃料でした。

現場は一之分目地先で現場まで行くのに一方通行になっていまして、現場堤防まで行くのに4、5日かかり苦勞しました。

軽油の方はなんとか弊社にストックをしましたが、ガソリンの方がスタンドに並ぶのに苦勞しました。

資材の方は皆さんと一緒に。なかなか手に入りにくい状況でした。

BCPの件で燃料を災害が発生したときに出して頂く協定をガソリンスタンドと結んでいるので、比較的スムーズでしたが、出し方に問題があった。弊社にばかり出すと周りが集まってきたのでガソリンスタンドの方が恐怖感を感じていた。その為、夜に出してもらおう等の配慮をした。

工具類などの一般的な材料関係はBCPができるような会社とやることによって入ってきた。資材関係は備蓄がなかったので入手が困難だった。

今回の震災が海岸沿いだったので、人の手配をする際、千葉や東京方面から入ってきてくれたので復旧に役に立った。

○H22 尾島地先緊急災害復旧工事 松崎建設(株)

災害当日の次の日あたりから資材を調達したので、4月の施工ができました。現場の施工としまして、風が強い面があったので苦勞しました。

#### ○H22 日川地先緊急災害復旧工事 幸武建設(株)

常に備えとか訓練は自社でやっております、特に災害時に道具類、最小限度である想定 of 緊急の資材関係、材料関係は備蓄し、一般状況では使うなどという状況でやっております。そういう面では材料その他はすぐ使え、困ることはございませんでした。

災害は忘れた頃やってくるという言葉もございます。これからも進んで勉強会があればどんどん参加して最小限の事故で済ませたいと思っております。

多少の備蓄、ブルーシート、土のう、道具等用意してありましてそれをまず使いまして、工事に入らせて頂きました。

燃料等におきましては、ドラム缶をまず用意しまして、国交省のほうから燃料を手配して頂き便を図って頂きました。

労務におきましては、混乱して人数の確保が難しかったです。日を追うごとに人数確保できてきまして工事も順調に行いました。

#### ○H22 横瀬地先緊急災害復旧工事 水郷建設(株)

施工現場内に広い土地があったので、現場の話を頂いてからすぐに地主さんと交渉しまして着手でき、現場の舗装ガラや搬入する購入土など広い土地を利用しながら現場を進めていたので時間的にもスムーズに施工ができました。

地元潮来市にあるということで地震のあった3月11日の夜から特に日の出地区の災害復旧工事に出動したので労務などが大変でした。

工事で使う大型土のう、ブルーシートに関しましては、足りないものに関しましては購入するような手配をとりましたが、わりと資材に関しては問題なくスムーズにできました。

ガソリン、軽油は現場で使用する重機をはじめ協力会社の社員、作業員の通勤用の燃料を始め、燃料の確保が非常に苦労したと思います。

#### ○H22 高浜地先緊急災害復旧工事 (株)波崎建設

施工規模がそんなに大きくなかったのと会社から近かったので比較的作業自体は早く進められたと思います。

資材に関しては土のうと大型土のう、ブルーシートは常時ストックしてあるのですが、今回対候性用土のうに関しては一つもストックがなかったのでこれからある程度はストックしておきたいと思いました。

燃料に関してはどこに行ってもなかったので会社にある軽油の車に備蓄しておくように指示しました。重機や鉄板を多く持っているのでトレーラーもあるので軽油に関しては 400~600L位は常時ストックしてありました。

○H22 余郷入地先緊急災害復旧工事 天海建設(株)

全体的な事について、ダンプ、車両、その他ロープ等の移動まで含めガソリンの確保が非常に困難でして会社に集合するだけでも各自それぞれ頑張ってくれましたが、非常に大変だったと思います。

現場ですが、資材等はなんとか揃えられまして、施工には問題はなかったのですが、工事期間が短いということで、最後の5日間程度は苦労したかなと思います。

○H22 井関地先緊急災害復旧工事 高橋建設(株)

3月12日復旧工事の現場説明会が朝10時からあつて参加しました。その日の午後に出張所で被災の現場で説明を受けました。

現場へ行ってみたところ、約1m~1.5m 約600m程度沈下していて、大きな加重をかけることは難しいという話でYP.+3.5までを全面にかぶせてしまいました。

資材の手配が大変苦労致しました。図面は頂いたんですが、大体多めに発注したというのが現状でした。

現場は一番下流部に入りまして、堤防等が破壊して入れない、袋小路のような現場でございます。いろんな制約条件があらわになって参りました。

例えば上流の方へ入って行くと、市の下水管が入っていてその部分が陥没していて住民の方や市から大型が通ってほしくない。

工程を引く上で、二交代でやらなければ間に合わないということで、実際夜間工事をしたのは3月24日~4月1日まで、夜間暗くて照明はあるんですが、安全な作業をできるように大型土のうを製作したり、事務仕事を念入りに行いました。

緊急時に、大きな仕事をさせて頂いたことによって、我社に技術力やノウハウを蓄積できたものと思っております。人間誰しも制約条件がたくさん出ると心が折れそうになるんですけど、そういうときに初めて潜在能力というものができて、大きな仕事ができると感じました。

今回の災害の中でBCPの良かった点は、水等の備蓄を行っていたこと、欠点は、メールでの連絡が全然繋がらなかったことです。

○H22 小高地先下流部緊急災害復旧工事 軍司建設(株)

現場の意見として、ブルーシートと土のうの調達に大変苦労しました。

土のうは名古屋から千葉あたりまで中継しながらもらいに行つて現場へ届けるという状況と、道具は地元だけでは間に合わなかったため、県外から応援をお願いしました。

○H22 小高地先上流部緊急災害復旧工事 ㈱根崎工務店

麻生地区の小高の上流をさせて頂いたんですが、下流の軍司建設㈱さんと協議しながら施工して、お互い相談しながらできた事がよかったと思います。

苦勞した点としては、資材の確保です。特に小型土のうなどが不足、数が合わなくて追加分が遠くからくるので時間が間に合わず苦勞しました。

1 3社の皆さん非常に貴重な意見を頂きましてありがとうございます。

霞ヶ浦河川工事事務所 畠山所長

震災時、当事務所には所属していませんが完成してからの配属であり、貴重な皆様方のご意見を聞かせて頂きました。

中には資材を会社で備蓄して問題を結果的に少なくした、地元の建設会社ならではの地元のガソリンスタンドとの連携のお話もありました。

あるいは会社の中で防災に備えてあらかじめ訓練やそのような対応を柔軟にできるように教育をしているというお話もありました。

国土交通省の備蓄関係をうまく活用したと、常に地元をご覧になっている企業の方々がそこに何々があるから使えないとかいう発想が連携の中でうまくいった部分もたくさんあるんじゃないかと感じました。

昨年末大雪が鳥取で降って除雪もままならない、地元の企業では雪かきの重機さえ持っていない、地方でそういった災害対応ができなくなっているのではないかと言う問題を大きく提起されているときに、このような災害があつて、他の事務所でも同じでしょうが短い期間の中で工事が、当たり前かもしれませんが問題がなく短期間に完工できていることについては今日交換会して頂いた意見も被災を受けた事務所として中央に対して大きく情報発信をして行かないとだめだと改めて思った次第です。

普段の仕事から災害に対する貢献を自然に技術力を含めて蓄積されていると情報発信していきたい。

今後この工事の状況も含め、詳細を伺うかもしれないので是非協力頂いて霞ヶ浦、業界全体の為の力に繋がるよう力を頂きたい。



受賞者全体写真



意見交換会